「やまぐちの種子を守る会」活動報告

2023 年 2 月 26 日

2021 年3月発足の「やまぐちの種子を守る会」のあゆみ

2018 年 4 月「種子法」廃止。

2019 年 2 月第 28 回フォーラムで、船越建明さんの「在来種種子を守る・広島県農業ジーンバンクの取り組み」講演。「山口県種子条例制定の請願書」採択、県に提出するも県は対応せず。

2020 年 12 月　種苗法改訂

2021 年 3 月　第 30 回フォーラムで、山田正彦元農水大臣の「売り渡される食の安全～いま山口県でできること」講演。「やまぐちの種子を守る会」発足。山口かんぽ研の木村会長が代表、事務局は安渓(貴)副会長。

2021 年10月の「日本の種子を守る会」刊行の小冊子「タネを守ろう!そうだったのか種子法廃止・種苗法改定」を購入し、会員に配布。この冊子や、2021 年6月30日時点での「種子条例制定状況都道府県比較マップ」（山口県も「市民グループが働きかけ中の3県」のひとつとして表示）を用いて山口県でも種子条例をと働きかけた。

2022 年 2 月、第 31 回フォーラムは、「日本の種子を守る会」にご紹介いただいて、千葉県いすみ市・鮫田晋さんの「未来をひらく有機給食～いすみ市の挑戦～」講演。山口市でも「エシカル給食」の試みを、小学校で始めています。

2022 年秋～「ゲノム編集トマトを受け取らないで」という要望書作成。柳井市長・教育長に手渡し。1 月には防府市教育長に手渡し。阿武町の議員に郵送など取り組みを進めています。

2022 年9月 県知事「山口県独自の種苗条例をつくる」と議会答弁。専門家の「検討会」が2回開かれ、12 月からパブコメ募集。3 回目の検討会を経て、2 月の通常県議会を経て 4 月の条例制定へ。

急に県条例制定へと動いた背景「近年の気候変動やウクライナなどの国際情勢の変化に伴い、食糧自給のリスクが顕在化しており、その対応が必要」と県は説明。全国の 31道県以上で制定されたことを繰り返し伝えてきましたので、その効果もあったかと思っています。

今後の活動予定

種子だけでなく、ローカルフードを守る法案のような取り組みを応援しながら、ゲノム編集食品などへの監視を引き続き行います。

情報共有のため、メーリングリストに加入してください。メールを a@ankei.jp まで